

教職大学院

学校課題解決研究報告書の概要

教職大学院
脇本 健弘

1. 学校課題解決研究報告書とは

教職大学院では、教職大学院での研究の成果を、修士論文という形ではなく、指導教員による個別指導等を通して、学校課題研究報告書にまとめる。テーマとして設定した学校の教育実践上の課題とその背景（経緯）等についての説明と、課題の解決に向けて「チームメンタリング実習」等において取り組んだ活動の詳細、その成果と課題等についてまとめることが求められている。課題解決のための自らの『実践』が記述されていない、文献研究のみの報告書は認められておらず、自らの『実践』をまとめることに特色がある。

上述した「チームメンタリング実地研究」とは、連携協力校で複数人を対象にチームで、所属する学校における教育実践上の課題(課題研究計画書に記述)に関してメンタリングを行うものである。学校が抱える課題(課題研究)を分析し、その解決に向けて校内の教師とどのように協働し、解決に取り組めばよいのか計画を立案し、実際に課題解決に取り組み、その評価までを行う。これらの取り組みを学校課題解決研究報告書としてまとめるのである。

善を目指して：片桐大樹

- ・ 協働で授業検討を行うことによる効果に関する研究 —特別支援校における学年での授業検討を通して—：木部美和子
- ・ 高等学校における教科横断による事前検討重視型の授業研究の開発：佐々木智三
- ・ インクルーシブ教育を推進するためのチームリーダーの在り方についての一考察 ～校内研修会を中心とした取組から～：武田翼
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教師の協働的な学びの一考察：深田淳一
- ・ 中学校における授業改善に向けた校内研修の取り組み —教科の枠をこえた取り組みを通して—：古屋公詳
- ・ 資質能力の育成を目指した授業づくりに向けて～高等学校国語科における実践～：本澤勝也
- ・ 反省的实践家としての教師の成長過程解明への一考察 ～カード構造化法で見えてきたこと～：山田剛輔

2. 平成29年度の学校課題解決研究報告書

平成29年度は11の学校課題解決研究報告書が提出された。以下はその一覧である。

- ・ メンタリングでの学習指導案の協働作成による子ども主体の授業の開発・実行に向けた工夫ができる教師の育成：尾澤知典
- ・ 特別支援学校における授業評価・改善の場を「学年」から「学部」へ広げることによる効果の一考察 ～チームで教育課程を考えるためのしかけのひとつとして～：堀田亜依美
- ・ 校内研究を通じた推進リーダーの役割の明確化：柏木裕子
- ・ ミドルリーダーによる経験学習モデルを活用した校内研修に関する研究 研究主題に即した授業改